

Physical Mental Spiritual
Simple Economical Universal
Total Lifestyle Change

自然を基調にした健康づくりの情報誌

トータルヘルス

No. 93

遺伝子組み換え食品—人類の墓穴を掘るのか近代テクノロジー

巻頭言



遺伝子組み換えトウモロコシの飼料 ピンポン玉大の巨大な腫瘍

除草剤ラウンドアップ使用の遺伝子組み換え飼料 顔の周囲や腹部に腫瘍

ラウンドアップ使用の遺伝子組み換えでない飼料 奇形と腫瘍

遺伝子組み換え食品が市場に出始めて早くも15年。我々日本国民は、その危険性について今だほとんど知らされていない。生物の細胞の一つ一つに書き込まれた設計図である遺伝子は、野菜や果物、穀類などであれば、本来は人体に最善の作用を及ぼすように意図された設計が書き込まれているはずだ。科学の進歩によって、この設計図を人間が分解し、切り貼りする技術が発明された。こうして作られた遺伝子組み換え食品（GMO）は、人体にどのような影響を及ぼすのだろうか？ GMOについて、企業側では人体には危険性はないと報告しているが、この発表はわずか3ヶ月程度の実験結果によるものであって、長期にわたって人体に及ぼす影響を予測できるものではない。国民の健康を守るべく政府もこうした食品の安全性に対して徹底した調査や実験をメーカーや研究機関に要請したことがない。

しかし二〇一二年、フランスのカン大学は、世界初の長期2年間にわたる、遺伝子組み換えと農薬に関する実験を実施した。二百匹のラットを3グループに分け、それぞれに別の餌を与えて観察した。結果は写真の通りである。どのグループも通常のラットに比べて死亡率及び腫瘍発生率が2〜3倍高かった。一番薄めたラウンドアップ（除草剤）で栽培された飼料でも、乳腺の腫瘍発生率が25倍高かったという。この1件の研究だけで結論付けることは控えたいが、GMO食品とガン発症のリスクには密接な関係がありそうなのは充分伺える。

日本に輸入されているGMO食品は、主にとりもろこし、大豆、馬鈴薯、菜種などであるが、これらが加工食品に含まれていたとしても、含有率が5%以内であれば、表示義務が無いという。ガン発症が増々多くなっている近年、菜食主義者にもGMO食品による危険が及んでいる。遺伝子操作は生命体の根幹に触れる技であり、人間の分を超えた行為のように思える。こうした食品が長期にわたって人体に作用するとき、現時点では人間が予測もできない結果に遭遇する恐れがある。遺伝子操作はそれほど恐ろしく、触れてはいけない領域なのではないだろうか。政府及び関係業界もこうした視点での理解があり、一早くGMOの供給をとどめてくれたらと切に願うものである。

Contents 目次

- 巻頭言：遺伝子組み換え食品—人類の墓穴を掘るのか近代テクノロジー 1
- ニュースタート健康法の底力⑨ 関節リウマチへの適応（1） 2～5
- アレルギーを良く理解しよう（9） 6～9
- 新連載：食事とライフスタイルが及ぼす行動への影響… 10～13
- トピックス：ミツバチの話し 14～15

- 野菜はちから ほうれんそうパワー 16～17
- クッキング：美味しく食べる栄養剤 18
- バックナンバー 19
- NKKだより：バックナンバー格安でご提供 20